

15:22 あなたがたが迷い出て、【主】がモーセに告げたこれらすべての命令、
15:23 すなわち、【主】が命じた日以後、代々にわたって、【主】がモーセを通してあなたがたに命じたすべてのことを行わないとき、
15:24 もしそのことが、会衆が気づかずになされたのなら、全会衆は、【主】への芳ばしい香りのための全焼のささげ物として若い雄牛一頭、また、定めにかなう穀物のささげ物と注ぎのささげ物、さらに罪のきよめのささげ物として雄やぎ一匹を献げなければならない。
15:25 祭司がイスラエルの全会衆のために宥めを行うなら、彼らは赦される。それは過失であり、彼らが自分たちの過失のために、自分たちのささげ物、すなわち【主】への食物のささげ物と罪のきよめのささげ物を、【主】の前に持って来たからである。
15:26 イスラエルの全会衆も、あなたがたの間に寄留している者も赦される。それは民全体の過ちだからである。
15:27 もし個人が気づかずに罪に陥ってしまったのなら、一歳の雌やぎ一匹を罪のきよめのささげ物として献げなければならない。
15:28 祭司は、気づかずに罪に陥ってしまった者のために、【主】の前で宥めを行う。彼のために宥めを行い、その人は赦される。
15:29 イスラエルの子らのうちのこの国に生まれた者でも、あなたがたの間に寄留している者でも、気づかずに罪を行ってしまった者には、あなたがたと同一のおしえが適用されなければならない。

15:30 この国に生まれた者でも、寄留者でも、故意に違反する者は【主】を冒す者であり、その人は自分の民の間から断ち切られる。
15:31 【主】のことばを侮り、その命令を破ったのであるから、必ず断ち切られ、その咎を負う。」

イスラエルは不信仰と不従順によって、カナンに入るのが遅れて放浪生活を送らなくてはならないのですが、そのような中でも神様の聖であることは変わりません。むしろ荒のでの苦しい生活のために、神様の臨在が必要であって、そのために神様の前に正しい姿勢が必要なのです。それは私たちも同じで、大変なときだから神様に従っている余裕はないというのは成り立たないのです。
ここでは罪のためにすべきことが書かれています。罪とはまず第一に神に対して犯したのだということが分ります。神様に悔い改める必要があるのです。また過失であっても、その処理をしっかりとする必要があります。悪気がなかったからといって、間違いをそのままにしている社会も人生も狂いが生じてくるのです。
「故意に違反する者」は「断ち切られる」と記されています。罪は何をしたのかが問われますが、それが過失であったか故意であったかという心も問われるのです。常に心を主に向けつつ、御心にかなう生き方をしましょう。過失があったら、謙遜にそれを償いましょう。また故意に犯している罪があったなら、十字架の主のもとに出て、悔い改めて、きよめていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

